

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590100121		
法人名	社会福祉法人報謝会		
事業所名	グループホーム ミューズの空 青島	ユニット名	1
所在地	宮崎県宮崎市青島2丁目7番8号		
自己評価作成日	平成28年1月18日	評価結果市町村受理日	平成28年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokansaku.jp/45/index.php?action=kouhou_detail_2015_022_kanistrue&lijvsvocd=4590100121-00&prefcd=45&versioncd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成28年2月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

馴染みの生活が送れ、安心して生活が出来るよう、家庭的な雰囲気を大切にしています。「認知症」に対する理解を深めるため、社内研修、職員間での勉強会に参加し、知識、技術の向上を目指し、スタッフとの連携を保ちながら、ご利用者様が安心して暮らせるようサービスの向上に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは家庭の延長線でありたいとの思いから、ホールや廊下の装飾や展示を控えめにしている。居室にはコルクボードを活用し、利用者の好みの部屋になるよう工夫している。職員は地域の一斉清掃などに参加し、従来からの地域社会に溶け込むよう努力している。また、ホームの立地の特性上、防災への備えとして、ヘルメットやライフジャケット、ホーム名を記載したプレート等も整備している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日常の実践として出来ることを職員間で話し合っ、分かりやすい理念を作った。	職員同士で理解しやすく、実践可能な理念を作り、業務に迷いや疑念が生じた時に原点に振り返ることができるようになっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域活動や年間行事には積極的に参加をし、施設行事などには地区長、自治会長を通して地域の方々へ声かけをしていただいている。	職員は、地域の一斉清掃などに積極的に参加するようにしている。また、ホームの行事にも運営推進会議を通して参加を呼びかけ、住民の参加を得ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々に茶話会などの持ち、参加して頂くことで、認知症の理解や接し方などを知ってもらう機会をつくっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現状報告を行い、最後に意見交換の場をもうけて、サービスの向上につなげるようにしている。	会議を身近な地域の情報や意見を提供してもらい貴重な場として活用している。災害対策等について、ホームの立地条件から迅速な対応が求められており、参加者から優先順位のとらえ方などの助言を得ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	更新手続きやその他書類提出の際は窓口に出向き、担当者とお話する機会を多くとるようにしている。	頻度的には介護支援専門員が連絡を取ることが多いが、管理者もできるだけ窓口へ直接出向き、顔を合わせるよう努力している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を開いて取り組んでいるが、十分に理解しているとは言えない。	身体拘束の弊害を理解しながら、業務優先で職員本位にならないよう気をつけている。職員間の意識や技術に差があり、内・外研修を通して全職員の資質向上に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内に虐待防止マニュアルを置き、職員会議などでの話し合いなど、職員の意欲向上につとめている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加した職員が他スタッフに説明したりしていたが、十分に理解しているとはいえない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族との話し合いの中で理解されていないところは、その都度説明して理解できるよう支援していくようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を設置しているが、利用者家族だけでの話し合いはされていない。個別に担当者や管理者に意見を言われる。それらの意見を反映して、サービスの改善も行っている。	家族の来訪時には意見を率直に聞き、状況を説明しながら理解を得よう努めている。家族会は存在するが、十分機能しているとは言えず、ホーム側から働きかけを行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議で職員の意見を聴く機会を持ち、回答できるものはその場で返答している。困難なものに関しては、上司の助言をもらっている。	職員会議や日常業務の中で、職員の意見や提案を把握するようにしている。マンパワーが厳しい状況にあっても、職員同士が何でも話し合える環境づくりを心がけている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望休を取り入れて、働きやすい勤務状況を作っている。休み時間に関しても、90分必ず取れるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎年、社内勉強会の実施を年間で実施している。資格取得、外部研修等の補助もある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	系列施設の同業種や地区会議には月1回以上のペースで意見交換を行っているが、他施設との		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の情報収集と職員間での情報収集に努め、早く慣れるような関わりを積極的に心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	十分な説明の機会を設けている。事業所が出来る事・出来ない事を詳しく伝え、不安のないサービスにつながるようしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	上記同様に、申し込み・見学の段階で事業所の出来る事・出来ない事の説明を詳しくするよう心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に生活行為を行うようにしながら、共に生活をしている事を行い、会話を大事にし、楽しむことで信頼関係を築こうと取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族等の面会時等は、事業所での生活の様子を伝え、在宅での暮らしの状況・助言などを聞かせて頂きながら、大事な一員として関わって頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・知人や親戚がみえた時には家族に伝え、面会簿を見て頂き、その時の状況も伝えている。	家族の協力を得ながら墓参りに行ったり、帰宅などをかなえるようしている。自宅からホームへ帰りたいとの希望があれば、24時間いつでも対応できるようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り、会話や行動がスムーズに行えるようにしたり、意図的に話しかけ、関係づくりの支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	1	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	些細なことでも遠慮せずにいつでも相談して下さいと伝え、関係作りを行っています。退所後も相談に乗っている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、家族の思いや希望を理解・把握するようにつとめているが、十分に出来ていない現状がある。		利用者の思いや意向の把握に努めており、マンパワーが厳しい状況の中、職員の資質向上を図ることで補うよう努力している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の馴染みの生活環境、暮らし方の把握に努め、本人らしい生活が出来るように努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	安心して過ごせるように、生活リズムの把握、変化時のスタッフ間での情報共有と記録によって、それぞれの気分体調に合わせた毎日の過ごし方の把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当スタッフを中心に情報収集を行い、本人がよりよい生活ができるよう意見を聴きながら、介護計画に反映している。3ヶ月に一回の見直し、モニタリングを行っている。		介護支援専門員が居室担当者や職員の意見を聞きながら介護計画を作成している。介護計画に沿ったサービスの提供ができていくかという点において、職員間で認識の違いがみられ、共有化できるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の言葉や行動の事実の記載と、その状況や背景を考えながら記録を行い、気づきやヒントを介護計画に反映するようにしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の要望に応じて、通院や外出等に柔軟に対応している。			

自己	外部	項目	自己評価	1	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の店での買い物など、本人を交えたかわりが出来るようにしている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の要望に応じて、それぞれのかかりつけ医と連携を取っている。体調変化時には随時協力医に相談し、適切な指示や助言を受けている。	本人や家族の希望に沿えるよう努め、かかりつけ医を変更する承諾を得れば、協力医へ変更している。受診に際しても、やむを得ない場合は職員が付き添い、家族への情報提供を密にしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が健康管理を行っている。体調変化時にはその都度連絡している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族と常に連携を取りながら情報を把握し、医療機関とも連携を取りながら、早期退院につとめている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化について話し合いを行い、家族の意向を書類に記してもらっている。	入居時に重度化に際しての指針を説明し、同意を得ている。かかりつけ医や協力医と連携を図り、看護師とも24時間連絡がとれる体制を整えている。また、訪問看護ステーションの支援も受け、チームで取り組むようにしている。	重度化や看取りについて、入居当初の説明・同意だけではなく状態の変化に応じた対応を期待したい。また、その都度書面化することも検討し、系統的な職員研修を実施することを期待したい。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡網を作成し、緊急時に備えている。看護師に24時間連絡体制で対応している。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を実施している。	火災等を想定した昼間の訓練は実施しているが、夜間についてはなされていない。ヘルメットやライフジャケット、飲料水等を備蓄し、適宜、入れ替えを行っている。	法人のマニュアルに準じ、ホームとしての対策を図ることを期待したい。訓練計画、実施、評価を行い、課題解決に向けて役割を分担し、また、記録を作成し、運営推進会議等で協議することを期待したい。	

自己	外部	項目	自己評価	1	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の自尊心を損なわぬよう、言葉かけや対応・態度に気をつけている。		言葉かけをする時は目線を同じにしたり、利用者の近くで声掛けをするなどの配慮をしている。職員のコミュニケーション能力を高めるため、研修等で資質向上を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で声掛けをして、自己の意思決定ができるよう心掛けている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	定期的に散髪や希望があれば毛染めも実地している。洋服も本人に選んでもらっている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に散髪や希望があれば毛染めも実地している。洋服も本人に選んでもらっている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に食事をしています。食事の準備・片付け等に全員が参加出来るように配慮している。		利用者と一緒にごはんや味噌汁をついだりしている。職員もできるだけ一緒に食べるようにしている。下膳は利用者が進んで行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康管理チェック表にて食事・水分摂取を把握している。足りない場合は代用食等にて補っている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアの誘導、介助を行っている。夜間義歯は消毒をしている。			

自己	外部	項目	自己評価	1	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を把握し、定期的誘導の声掛けや介助を行っている。日中はリハビリパンツにて対応する。		トイレ誘導が必要な利用者には、時間をみながら誘導している。誘導を的確に行うことで、リハビリパンツの利用者がパンツを汚す回数が減った例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体調チェック表にて排泄状況の把握、状況に応じて、水分・食事の調節をし、体を動かしていただいている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日・時間は決まっているが、必ず本人に希望や体調をきいています。		基本的には週に3日の入浴であるが、毎日入浴することも可能である。入浴を拒む利用者には、声掛けによる気分転換を図って入浴を促すなどの工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具の清潔を心がけている。不安感がつのらぬよう言葉かけや見守りをしている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬については特に気をつけている。周知徹底し、誤薬防止を心掛けている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の片づけ、拭き掃除、洗濯物畳み等、それぞれの方が出来る事をしてもらい、発揮の場を設けている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来るだけ外出の機会をもうけている。遠出に関してはできていない。		できるだけ希望に沿うよう努めているが、最近はや当を持っての遠出などは困難になっている。中庭のテラスを活用した気分転換を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	1	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお金を持っている方は、買い物の時に自分で支払われたり、職員に買い物を頼んだりしている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたいとの申し出があった場合は、電話をかけてもらって自由に話せる場を支援している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングで読書をされたり、気の合った者同士の居室を行き来され、おしゃべりを楽しまれたり、思い思いに過ごされている。		落ち着いた色で建物全体を統一し、装飾品や置物なども最小限にしてすっきりした空間になるよう心掛けている。食事時はテレビではなく、懐かしい曲をラジオカセットで流し、落ち着いて食事ができるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで読書をされたり、気の合った者同士の居室を行き来され、おしゃべりを楽しまれたり、思い思いに過ごされている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使い慣れた馴染みの品が持ち込まれ環境が出来ている。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、廊下、浴室、トイレに手すりが設置され、安全に生活が送れるようにしてある。			